



## 新市指定文化財 紺紙金銀字千手陀羅尼經

平成28年3月25日、津観音大宝院が所蔵する有形文化財9件が、新しく津市指定の文化財となりました。

今回は、新しく文化財となった資料のうち、製作された時代が最も古い「紺紙金銀字千手陀羅尼經」を紹介します。これは、紺色に染めた紙を使い、金色の枠線の中に、金字と銀字で一行ずつ交互に経文を書写した紺紙金銀交書經といわれるものです。

紺紙金銀交書經は、平安時代後期のものが数種類知られていて、中でも著名なのが「中尊寺經」と呼ばれるものです。この中尊寺經は、奥州平泉(現在の岩手県)を本拠地とした藤原清衡が、永久5(1117)年から8年ほどかけて書写させ、平泉の中尊寺に伝来したものです。現在、中尊寺には15巻を残すのみで、和歌山県の高野山金剛峯寺に4,296巻、大阪府の観心寺に166巻、東京国立博物館に12巻のほか、全国各地で保管されています。そしてこれらの多くが、貴重な写經として国宝や重要文化財に指定されて



紺紙金銀字千手陀羅尼經

います。

大宝院所蔵の「紺紙金銀字千手陀羅尼經」は、使われている紙の質感、金銀字による経文の書風などから平安時代後期、12世紀に製作されたと考えられます。中尊寺經の一部である可能性が極めて高く、紺紙金銀交書經の重要な資料として、市指定文化財となりました。

新たに指定された有形文化財は5月29日(日)まで、津観音資料館で公開されています。この機会に津観音を訪れて、「紺紙金銀字千手陀羅尼經」をはじめとした貴重な文化財を間近でご覧になってはいかがでしょうか。

新市指定文化財一覧表

種別	名称	員数	時代
書跡・典籍	紺紙金銀字千手陀羅尼經	1巻	平安
書跡・典籍	紺紙金字妙法蓮華經	8巻	平安～鎌倉
絵画	絹本着色 釈迦十六善神像	1幅	鎌倉～南北朝
絵画	絹本着色 尊勝曼荼羅図	1幅	室町
絵画	絹本着色 五大尊像	1幅	室町
絵画	絹本着色 不動明王像	1幅	室町
絵画	絹本着色 高野四社明神像	1幅	安土桃山
絵画	絹本着色 大随求菩薩像	1幅	安土桃山～江戸
絵画	絹本着色 職貢図	1巻	明

